

深川新話

分六寸三	コ	ヨ	紙	表
分三寸五	テ	夕		
分二寸三	コ	ヨ	粹	文
分四寸四	テ	夕	本	

序

爰に山手の馬鹿人とはかたきいふ人あり。むだの聖也。又肩のごとくひと丸といふ人あり。むだはぞつこん得手也。ひと丸は馬鹿人が上にたゝんとかたき。馬鹿人はひと丸が下にたゝんとかたきなん有ける。ひと丸も御好なれば。はかひとも御好。日さへくるれば早往くと鳴。鳥は

序

爰に山手の馬鹿人とふ人あり。むだの聖也。又肩のごとくひと丸といふ人あり。むだはぞつこん得手也。ひと丸は馬鹿人が上にたゝんとかたき。馬鹿人はひと丸が下にたゝんとかたきなん有ける。ひと丸も御好なれば。はかひとも御好。日さへくるれば早往くと鳴。鳥は





もとより助兵衛島。
 一たび垂天に羽うつ
 て野父天を睥睨す。
 されば山の手の西よ
 り深川の東のはて。
 蟻の穴まで仔細に見
 きはめ。一卷の書を
 著す。名づけて深川
 新話といふ。予蓬蒿
 際よりちよびと閑し
 て、これを如在の序
 の字とす。

安永八亥とし

正月

朱樂館主人題

て野父天を睥睨す。されば山の手の西より深川の
 東のそと。蟻の穴まで仔細に見きまう。一卷の書を
 著す。名づけて深川新話といふ。予蓬蒿際より
 ちよびと閑し。これを如在の序の字とす。

安永八亥とし

正月

朱樂館主人題

深川新話

朝凡の松たなをふかき、
 船頭安ナニサ 爰はどよく釣る所アごせへ
 息子。安アイそれでも。マアもふちつ
 と爰で釣て御らうじやし。安きのふな
 んども。爰で斗り二歳三せへが懸りや
 した。東そんならきのふ。みんな釣て
 仕廻たのだらう。安そんなとだも知
 れやせん。安来たノ。安アレみなん
 し。東ほんに。こいつも二歳ぐれへだ。
 ヲットござつた。エ、いめへまし。又と
 られた。安なんだ。とつてもお前のや
 うに餌斗とられちやア。はじめらね
 へ。ドレお出しなんし。わつちがちつ
 とやかして見やしよう。東ヲ、その

うち一盃氣を付ふ。少秋の暮だ。
 筒を出して二。どふだ息子吞ねへか。文い
 へ。東舟州は氣はなししか。安わつち
 もたべんすめへ。東それでもふ一盃
 はよからう。安アイまあ今にいたゞき
 やしようよ。いやさは御らうじやし。
 一寸とおろしてもけへづさ。東こいつ
 ア恐ろしい。文おれも肩やアしねへ
 ぞ。安ほんにきついノ。けへづのつら
 だね。東どれノ。おれも釣てみせよ
 う。安マアくもふちつとわつちにお釣
 らせんし。東インニヤくおれもけへ
 づをあげねけりやア口が利ねへ。安
 ナ。又お前さの攝待だらう。東ナニサ
 見給へ。アレもふきた。エ、ごう腹な。
 安そりやノ。わつちが言ねへ事か。文
 あんまり上なさりようが早へのだろ
 う。東どふも久しく止ていたから。調
 子がしれねへ。おとしあたりやア凄
 かつたよ。一時の間に二三束とるにや

ア骨は折なんだ。安そりやアおめへ。
 胴二がむせうにすべたで踏下けたらう
 から。東こいつアい。事をいつて呉た。
 文どつこいな。安君旦那。よくおあ
 げなせんすね。東くやしし事だの。安
 アレそこさ。東爰か。来たノ。エ、
 たまノ。釣たらだぼうだ。文それでも
 懸れば張合に成やす。安ようごせん
 す。口が直りやせう。東ホンニ。口が直
 るといへば。此中驛の何泉とかいふ所
 へ一晩往たら。とんだ事の初會から帶
 紐解の身の上咄しといふ幕さ。安そり
 やアとんだとでごせんすね。東サア
 それから聞ねへ。そいつがまんに成た
 たかして。此頃じやア何處へ行ても鉢
 巻をしねへ助六といふ身で。意休にか
 くれの間夫遊びさ。安成ほどあれもか
 わつたもんで。ひよつともてると。何
 處へ往ても感通するもんでごせんす
 よ。安ほんにお前大文字屋のはどうな

せんした。〔東〕ナア面白いアすつとながしき。〔西〕それでもかわいそうだね。〔東〕ナニサ色男と升屋の代物にせうの有のはねへのさ。〔西〕大文字やのはどういふ理屈へ。〔東〕ナニよくもねへ女郎だが。ことし年が明とやら何とやらといふ注文の所へ。野郎がすつと乗込さ。始終せわにもしようといふ風で。小袖二ツがりの直ぶち殺し。去る所で居續なんぞはどふだらう。〔安〕そりやアあんまりむごひね。〔西〕チわたしも餌をとられやした。〔東〕ナニもふ釣所じやアねへ。〔安〕咄しがしこつてきやしたね。ナントいつそ今から何所へぞ付ようじやアごせへせんか。〔東〕こいらもはやりそふな作者だ。むすこどふだ。〔西〕アイ親父に釣といつてめへりやしたから。どふも。〔東〕ウ、流石文公有がたてへ一言だが。すくないかな方便さ。ねつからはせつ子も持て歸らねへようじやア悪ひけれ

ども。モウ取集て四五十もあらふから。けふは風はよかつたが。なせか不獵でとか何とか。そりやア又ふるなの弁で。をれもとりなすから氣遣のさんのじもねへはサ。〔西〕いやでもない。そんなら往うかね。〔東〕ゐねへ手しよじ爰に有よ。時に舟州。何所へ往かう。せんたく島か。お旅か。〔安〕ナニサやつば櫓か。すそつぎがよふごせんす。〔西〕なんでも舟着のいゝ所がいゝ。〔安〕そんならうらやぐらさ。〔東〕いゝ内が有か。〔安〕わつちがいゝ所へ連申てめへりやす。〔西〕そんなら羽折を着て來ればよかつたね。〔東〕ナア有てへに釣に往たと白狀するさ。〔西〕アイサ此頃の昼お客は。みんな合羽でお出なせんす。〔東〕千崎彌五郎といふ風も中／＼さへだらう。〔安〕そんならモウ極りだね。〔西〕よし／＼。〔東〕こゝをどこふか。〔安〕きつひせき込さ。どれわつちが。ともやいを解き。うらやぐ。〔西〕〔東〕をつり道具らへとさつきおせ。

手などゝ〔東〕手をかエ、いつそ鮮せへ。精進日の女郎衆ア買れねへ。〔安〕啞アねへ。〔西〕わたしがのめいつそ鮮ふごせんす。トキニ何時だの。〔安〕もふ八ツ前でごせんしよふ。〔西〕まだそふはなるめへ。〔安〕ニおめへ初面の河岸で并當をあがるとき。九ツウ打やした。〔西〕とんだ日か、みじけへの。〔安〕アイなんでも追かけくらアするよふでごせんす。さし汐の猪牙といふものさ。〔東〕ハ、ハ、商賈柄でたとゑるもんだの。〔安〕ヲ、あたる／＼。とりかち／＼。〔西〕先ノ角頭ヲ、安か。何處だ。〔安〕裏よ。〔西〕舟行通。〔西〕をらも今まで表の高砂にいた。〔西〕あれも往たのだね。〔東〕店ものぞゑへだ。膳なしの床廻し。ちよんの間契りのすい歸りといふやつさ。時に息子。主の注文は新か。としまか。〔西〕中としまがようごせんす。お前はへ。〔東〕おらも中さ。〔西〕そんならなんでも。中としま衆二人とい

ふがよふごせんす。東とかく美なるをもつてたつとしたせへ。安そりやア如才ごせんせん。夕アもこつちイお客連申て来やした。安何處から。安山の手のおきやくでごせんす。久しぶりこつちイお出なせんした所が。何か大の極りで又あしたお出なす筈でございす。唄がとんだよふごせんす。東山の手でよく諷ふやつは誰だろの。里州か仙橋が幸次なんぞだもしねへ。安いゝへ。そんなお名じやアごせんしなんだ。東ハテ誰だの。うちのうらやらくへ着安ヲ、イ若松や。著い者伊ハアイ。安どんか。安アイ上申てくんねへ。伊サアお上りなさりまし。東アイさあ息子。安あい。伊お危ふござります。お静に。東よし。二人とも安その物をたのむよ。安何もかもわつちが持てめへりやす。とふねの中をか伊おそのどん。お客だよ。中居その

タイ。さあお二階へお出なんし。東こだ。安こに致しませうかね。安何處でもよし。安さようなら爰がお静でよふござりませふ。安も上リナゼ見通しにしねへ。安ヲ安さんか。見通しはあんまりお寒かろうとおもつて。安それもそうだの。東みんなかたづけてくれたか。安アイ何もかもひとつにして下イ預けやした。安びくはどふして呉た。安あれも持て来て。水イ付て置やした。安よし。安あなの方アおなじみでもござりやすかへ。安いにやお初會。そして何だよ。おふたりながら中としま衆だよ。安そんなとお照さんお哥さんかの。安ウそんなとがよかろう。東なんでもおらアぬしに似たのがいゝせへ。安ホ、いゝ。わたくしに似た女郎衆ア。柳原の士手でなくつちやアござりませんと。いゝながらうかへ出安さん。一寸と來な。

安なんだ。同じくろ。安小こへ夕アの事アどふも出事そふもねへによ。安それじやアとんだ詰らねへ。なんでもそこを働てくりやナ。安どふもそれだとして。わつちが手にもねへもんだから仕方かねへ。よく。だとおもひな。今朝おふみさんにまでそふ云てみたけれども。急にやア出來ねへ。安出來ねへたらよかろうの。マア往て來よふ。安ウ、早く女郎衆ウ云てやりや。安は下室さへ。東なんだかいちやつくもんだの。氣がもめるせへ。安ナアそんな事ちやアごせんせん。東いにやサ。なんぼかくしても。ノウむすこ。安アイキどうりで裏やぐら。といつてすゝめたの。安がらかな何サお前。子供小市茶にのせて。お茶ア上りやし。安ウ、さあ東里さん。東いにや。をらア吞めへ。小そんなら安どん。吞ッしやら

ねへか。〔安〕こいつまづいやつだ。おれにやア賈れあまりを呉るの。〔小〕余りちやにやア福が有からさ。〔安〕そんならのもふか。〔小〕へ、あたしけねへの。とてひ行にて。〔安〕なんと云た。とすけ出。〔小〕すてうしを持。なんだな。そう／＼しい。これ小市どん。まだおたばこ盆がこねへそふだよ。そしてお火鉢をもはやく持て来さつせへ。〔小〕どふも火鉢アわつちがのにやア持れぬせん。〔安〕エ役に立ねへの。そんならまあおたばこぼんを持て来さつせへ。〔小〕ふせうに。あい。〔安〕そふいつてやんなすつたか。〔安〕そふ云てやつたがの。おてるさんは出でたとき。〔安〕そしてどふした。〔安〕夫でお哥さんと何にした。おぬひさんに。〔安〕ウ、おぬひさんもよからう。〔安〕そんなら。息子かおれが内で頼風が出来よふといふ物だ。〔安〕ほんに左様サ。ホ、ホ、ホ。〔小〕だばこぼん持来り。〔安〕さあ御酒ウ上りませ

んか。〔安〕あい。〔安〕さやうなら。わたくしがお煙を見てあげませう。ハイ、憚ながら。〔安〕おせへようか。〔安〕いゝへマア上りやし。さあ。文つぎなさんな。〔安〕なせへ。〔安〕どふも。ちつと呑でも。直に眞赤になるよ。〔安〕よふ御座りますはナ。〔安〕是さ／＼。〔安〕ほんに上りませんかへ。〔安〕ウ、呑ねへ／＼。〔安〕サア東里さん上やせう。〔安〕アイさあ理詰で。おれにもつゐでくれざアなるめへ。〔安〕ついで上やすとつて。〔安〕ワットある／＼。さあ安ばうさすよ。〔安〕あい。〔安〕ろちかおそのどん／＼。〔安〕アイよふごせんす。お出なせんし。〔安〕出して。さあ／＼。〔安〕どなたもよふお出なんし。〔安〕安どんどふさした。〔安〕アイ御さげんよう。〔安〕ほんにとおふ／＼しい。〔安〕ここの内イはめりやすが。まちがつてお目にかかりやせん。〔安〕お盃はへ。〔安〕コレ安ばう。手めへにさす筈だつたが。急

に入用に成たからさうねへせへ。〔安〕こりやア。もふ御如才のねへ御あいさつでござります。ハ、ハ、ハ。〔安〕ハ、ハ、ハ。〔安〕サアお出しなせんし。〔安〕これは／＼。度／＼有がたへの。〔安〕こへどつちらへ。〔安〕阿しく小むらさき／＼。〔安〕あい。と哥がま。〔安〕わつちかへ。と盃とりまねし。あなたはさかりながら。〔安〕ちつと上やせうか。〔安〕マアおとりあげなんし。〔安〕アイそんなら。アレサ又つぐよ。〔安〕ホ、ホ、ホ。ほんにそふだつたね。〔安〕あげてくりや。〔安〕アイさあおぬひさん。〔安〕ちつとお障りもふしんしよふか。〔安〕何さ。ねつから上りやせん。〔安〕そんなら上んすめへ。これもしかづきつちりい。サア安どん。久しぶり。〔安〕はんに久しぶりやう／＼廻つて来た。〔安〕さるにならねへでよかつたね。〔安〕ナニ今に猿のやうに赤くなるのさ。〔安〕せんでへおめへがたが。もふちつと遅と。

とふにわたしが所へ来る。盃だつけねへ。**安**そふさ／＼。**安**サアついでくん。こひつアむごひぞ。**安**ナニ直に酔てせつながらながら。**安**それでもこりやアあんまりだ。**安**そんなら半ぶんのみなせへ。**東**なんだか。むつまじく過ていめへましいぞ。**安**又わる口をおつせんすよ。**安**それでも。きまつた申アいわれるのは。結句嬉しいよふなものさ。**安**なんとへ。といひながら。立**安**ア、あやまつた／＼。こつちの事だよ。**安**よし／＼。覺へてお出なせんし。**安**おほへて居ねへでさ。ノッお哥さん。**安**ほんにいつかのとをいふかの。**安**又おめへまで。**東**いつかの事アなんだ。聞てへの。**安**何サ。みんな啞でござります。**安**あのね。**安**又／＼おつせんすと聞やせんよ。小市 持ても。あい。そこをちつとお頼申やす。**安**おすひ物か。爰へ出しや。**安**ヲット爰へもよこしたり。

サアおすひなせんし。**東**サア文公とふだ。**安**わつちやア安どんにゆせろう。**安**ナセ上りやせんか。**安**いや／＼。**安**そんならいたゞきやせう。**東**盃はどふ成た。**安**こゝに御ざります。憚りながら献じませう。**東**こりやアちつとおせへよふ。**安**そんなら。お哥さん。一寸とおあゐとやら。何とやら。**東**こりやアもふお見立て迷惑いたしぬす。**安**御酒はともかくもさ。**東**そんならおそのどん。つがつしやんなよ。ヲット、く。アイおあいを給いした。**安**こりやアありがたふ御座ります。ハイあなたをお押を給ます。**東**どれ／＼。一盃有かの。**安**一盃つぎました。御ろうじまし。**東**ウ、よし／＼。**安**火ばちのそばへ。前方ア釣においでなんしたね。**安**あい。**安**たんとお釣なんしたかへ。**安**ナニけふはねつから不獵さ。**安**ふりやうとはへ。**安**ちつと外アつりやせん。**東**ど

こにおせんす。おみせなんし。**安**下ニ置やした。**東**ナニはせか／＼。とりよせよふ。と手をと**安**子供は何處イ行て居るの。**安**わつちが取てめへりやせう。おお押へ。**安**盃ア上ゲやしたよ。**東**アイ来た／＼。かみさん又つゐでくん。な。**安**そんなとをおつせんす。一盃つぎやすよ。**東**そりやア猶勝手にい。い。**安**はんにそふだつけね。ちつとつぎますよ。**東**そんならうそだ。いわねへ／＼。おめへお近づきのために上ゲやせう。**安**わつちかへ。ちつとお障りもふしいせう。**東**そんなら。かみさんじやアねへ。姉さん。あいをしてくん。な。**安**お手元と申ませうかね。**東**そりやアむごひ。まあ／＼。**安**どれ。おれがつこう。**安**アイ是は憚でござります。あなたのお酌なら。一ツ給すは成ますめへ。**安**いめへましい。とかく息子にやア繪がつくの。ア、むかし戀しいなア。**安**ア

イ給ました。東御くらう／＼。西おめへにもつゝで上ヶやせう。東をらアぬしの酌じやア氣がねへ。西そんなら。お哥さんのお酌ではへ。東そりやアもふいくらも存るのさ。西ほんにかへ。いつそうらしいね。と少し嘲。西コレどふも水が垂てならねへ。早くなんぞ出してくん。西お前また盆イでものせて來なさればいい。と東またの臺を。西どれ／＼お見せんし。西おや／＼。かわひらしいのが有ねへ。東けろづが三ツ四ツ有筈だ。西ほんにねへ。こりやア黒鯛とやらの子だとねへ。西ほんにかへ。わつちやア。はせめて聞やした。東工藤が身ぶり。おや。黒鯛の子供等。はせ珍らしい對面じやナア。西こりやアい／＼。西どふもい／＼ねへ。西おめへも何ぞおつせんし。西おらアはせかしい。西とんだよおせんす。東なんだとつても藝者揃へだもの。西びく指をまた

びくまれ口をおつせんすよ。東めくねて。びく／＼びくらには。何も後生とおぼしめし。西同。へ、／＼、／＼、／＼。西どふもおそろ／＼。西いくらも出るねへ。西ほんにびく／＼も出る。西ホ、／＼。出るつゝでにお膳が出ましたよ。西面ヲイお食をおあんなんし。西ソレお膳がまがる。お汁がこぼれるはナ。西どふもそれでも足元が見やせん。西おそふだ／＼。手前のが尤だ。西よしなんし。只でせへ口ごうせうだに。サアおめへがたア。めし替てお出なせんし。西あい。西左様なら往てめへりやせふ。お頼んもふしんすよ。西おゆるりとおあんなんし。二人とも。西サア御せんを上げまし。東まだねつから喰氣なした。文公とふだ。西わたしもまだ給上られやせう。東ナニ弁當を喰て間かねへもの。西それに日がみじけへか

らの。西お茶漬にでもなすつて上りまし。お茶ア持て來や。西あい。西どふでござんす。お氣に入やしたか。東とんだ可愛らしいの。息子とふだ。西お前のがよふござんす。西おぬひさんよふござんすせへ。そしていつそおとなしい子でござんす。東おれが奴アちつと高風だの。西ナニそふでもござんせん。安さん。お食ア。西おらもいや／＼。ア、酔た。西ソレみなせへ。けしからねへ。目まで赤く成てさ。西アイお茶アもつてめへりやした。西どれ／＼サアお茶づけになさりまし。西おんななら一盃喰ふか。西ハイさあ。東おらアイや／＼。西一せん上りやしな。西どふもいけねへ。茶ばかり呑ふ。西爰へも茶アくん。西もふちつと上りまし。西どふして／＼。西上りませんかへ。西もふいや／＼。西そんならお膳どもをさけや。西あい。西んを。西ち

つと藝者来てもお呼なさりませんか。

「妾ナニ直にお歸りなさる。すぐにお床を廻さつせへ。」

「そ、そんならお床を持て来るから。こゝを片付けてくんなよ。」

「合点だ。」

「そのびくきは。又水イでも付て置てへもんだの。」

「アイ今にもつてめへりやせう。」

「コレ例題ウぬしに渡そふ。」

「アイ今の女がめへりやせう。」

「ぬしやつてくりや。」

「やせうか。」

「イヤまあよし。」

「どふせお座敷が明てをりますから。」

「おひとりはこちらに致しませう。」

「そりやアなをい。」

「何事もよろしひやうにお頼申す。」

「左様ならあなたは。こちらでござりますよ。」

「おれか。よし。」

「左様なら。御きげんよう。」

「と見通しの方。」

「一寸とこつちい來な。」

「類め。」

「どふでも只じやアねへす。」

「知れし。」

「わたしはあつちい往て寐やすよ。」

「急ぐもんだの。」

「マアあいらが来るまで咄しねへナ。」

「そしてい。」

「今の内女郎買の穴アをしへよ。」

「先第一初會に上つた時に。」

「誰でも負をみるが。」

「あいつが惡ひ。」

「しかしねつから知らん顔をして居るもよくねへ。」

「あいと言ながら。顔を見すに腰から下をみるが。」

「又女郎といふ物ア。」

「そけへ来て居る。」

「まづ客の面ア見るもんだから。」

「その内アこつちからア見ねへよふにして。」

「茶やか舟宿に挨拶する時分に成てみるが。」

「それも見立て揚た女郎なら見ねへでもいふけれども。」

「呼出しなんざア。」

「揚てからが見たてだから。」

「見ねへじやア。」

「盃を手持て。」

「どつちらにしよ。」

「ふと負をみるは。不出來なものだよ。」

「それでもわたしがやうに。」

「跡で盃をする時ア仕様がござんせんね。」

「そこにまた口傳が有。」

「なんでも大一坐のときなんぞに。」

「先イ盃をしてへと思ふなら。」

「酌に出た女が若へものに。」

「はやく言ばを懸て。」

「なんのかのと咄をしけるが。」

「そふするとは。」

「ながら始て上ませふといふ時に。」

「先心安そふに見へる方イさすもんだ。」

「れでも。」

「さつきはあの女がわたしが方へ先イさしやしたせへ。」

「向ふに氣どりのねへのだから。」

「仕かたがねへ。」

「それに又伏玉でねへところじやア。」

「女郎の來るまでにやアいくらもさかづきの廻るとも有から。」

「そかアめかりと云ものさ。」

「そしてあの床イ這入て寐て居る所へ。」

「敵が來た時に得手ねた振をして。」

「寐なんしたか。」

「何時だね。」

なぞとやるもんだが。あれが大の野暮やまのする仕内しうちだ。ねなんしたかと云て来たらば。どふして獨ひとりでねられるもんでござんす。なんぞといふがい。〔文〕ア、貰もらへ懸かられた女郎やうらうは。直すにやるがよろうね。〔重〕ッ、所詮しよせんもらう氣きのやつなら。やるがい。ようなんだけれども。そこにやア異心いしん傳心でんしんがあるて。二三度も往むかた上の貰もら引ひなら。直すにやるは惡わるひ。もちろんもらう氣きからは。すなほにやつたらうれいと思ふが。おとなしくやる客きやくに。金かねを遣やふ奴やつはすくねへもんだから。詰つる所ところがこつちの懷なつこを見みさがされるやうなもんだ。全妹ぜんまい女郎やうらう買かといふ物もの。初而しよてのうちは。成なりたけさん／＼の見みえをもし。金かねの有風ゆうふうにして。物事ものごと溫和わんだに見みせるが肝心かんしんだ。げいしやなんぞを搦なた時に。唄うたでも。上るりでも。一心いしんに聞きて居ゐるは安やすく見えて惡わるひ。彈ひたり語かたたりするうちは。わつ

わと懸かひでいて。てつんちやんとやつても。直すにほめすに。とき過すてやんやなぞと有あべかゝりに譽ほめるがい。諸事しよじ其氣味きみ合あでむかふからも。ちつと來たと見たなら。隨分ずいぶんやきもちもやき。ひつこくもするがい。ハテそれでうるさがるやつなら。早はやくされて仕廻しきが勝かた。おとなし遊あそびにして居ゐては。いつまでも先の氣きがしれねへ物ものだ。なんでも春はるに成なりたら。傾城けいじやう買かの穴あなと氣取きとを本ほんにして出だそふと思ふ。〔文〕そりやア流行はやりやせふ。〔重〕にて。おそのどんは何處どこへ往むかたの。おそのどんや。〔重〕おそのどん／＼。〔重〕奥おくさしき。あい／＼。〔重〕おら。呼よんで下さるかとおもつたら。〔文〕わたしやア。又またお膳でんが下くだつたら。お出でなんすだらうと思つて。〔重〕ナニおせんは直すに下くだつたから。大かた知しらせて下さろうと云いていたはナ。〔重〕堪かん忍にんしておくんなんし。安やすどんにもつと用もちが有あたから。〔重〕そ

だらうとおもつたよ。安やすどんを賣ばいてやろうじやアねへか。何所どこにだ。〔重〕ナニサいつそ醉よめたとして寐ねて居ゐやす。〔重〕又かぶろうせへ。〔重〕ナニ惡わるひ事ことてもしやアしめへし。〔重〕惡わるひ事ことアしめへが。いゝとをしたろう。〔重〕ナニヤまだおよりやせんかへ。せうじを。〔重〕どふして男斗おとこでねられるもんだ。〔重〕ほんにそふだね。サア／＼お二人ふたりながらおよりやし。お火ひは御座ござりますかへ。〔文〕有あ／＼。〔重〕火かは有あが。なんぞ着きせてやらすは。風かぜを引ひふせへ。〔重〕誰だれかへ。〔重〕誰だれか／＼知しれたとよ。〔重〕ナニかまひねへなさ。いひすて。〔重〕サアお前まへがたこつちひ這入はいな。〔重〕あいな。サアあなたこつちひ來きておよりゐしな。〔文〕あい。〔重〕ほんに。サアいきな／＼。〔文〕そんならお休やすみなせんし。サアおめへも寐ねなさらんか。〔重〕あい。お休やすみなんし。〔重〕ハイあなた。後あとほどおめに懸かりいせふ。〔重〕ハイお頼たのん申まうやす。〔重〕

お案んじなんすな。サアお出なんし。
 文待な。たばこ盆を一ッ持ていかう。
 經ドレわつちが。文いゝにや。よし
 ノゝさあノ。と。文經は又隣のさ
 前もねねへか。經エあい。火ばちの火を。
 黒サア寐やな。經あい。と床へ。黒なん
 だか。濟ねへ顔色だの。經なせか。い
 つそ虫がかぶつてなりやせん。何ぞに
 げへ薬があらばおくんなんし。黒はん
 こん丹が有たつてが。經そりよをおく
 んなんし。黒久しいのだから。利かど
 ふかしれねへす。出はな紙入より。經みんな
 呑のかへ。黒それはども呑ねへけりや
 ア利ねへ。經ッ、にげへぞノ。黒に
 がくなくつちやアさ。經こりやアもふ
 湯ウのんで來ねへじやアならねへ。と
 又出て。文今そこを通たのは。だれたの。
 經哥さんさ。文もふ小用に行のかの。
 經ナはまだいかな事でも。何ぞとりに
 行たのさ。文紙でもわすれたといふや
 つかの。經おめへもまた。よくこみづ
 に氣を付なんすね。そのやうに何角に
 氣が付なんしちやア。おかみさんに成
 る者ア仕合だ。文そんならおめへ成て
 くんな。經どふしてわたしらがよふな
 ものが。御新造さんにやア及びもねへ
 が。ほんにせめて食焚にでもしておく
 んなんし。夫アそふと。ぬしやアいく
 つにお成なんすへ。文十八さ。おめへ
 は。經主よりやア一ッうへさ。文十九
 か。經アイそれだものヲ。どふせ叶ね
 へ事だ。文それでも一ッ増の女房を持
 と。仕合がいと云からい。經はん
 にかへ。とうれしがるやつさ。あつか
 ましいのウ。お歸なんしたら。嘸はな
 して笑ひなんすだらう。文ナわらう
 もんだ。經それでもふ來やアしなん
 すめへ。文又此頃に来やせう。經だま
 しなんすなよ。けふも胃のうちお出な
 んしな。文どふもけふは。釣に出たか
 ら居られやせん。それにまた五ッにな
 る妹が有かね。わたしが釣に出ると。
 肴を見るとつていつでも寐すに待て
 るから。どふも歸らねへじやア成やせ
 ん。經そりやアほんに可愛らしいね
 へ。そして外に御兄弟さんがたアなし
 かへ。文姉が一人有が。こりやアもふ
 片付ていやす。經まだ御両親ながらお
 達者かへ。文あい。經いゝお樂みだね。
 わつちなんざア何もなくて。たつた
 おちさん一人でおせんす。よそのかゝ
 さんも夏中から煩つて居るすから。い
 つそ心細くつて成みせん。それに今年
 アわつちが。厄年だから。なをおもひ
 過しがされぬすよ。文ナ厄年だとつ
 て。結局やく年にいゝとも有もんだ。
 そして今年もふあつとだからい。文
 經はんに。どふぞ御方便で。何ぞなく
 はやく春にしたふおせんす。ヲいさ
 むひ。もつとこつちひ寄ておよりゐし

な。〔文〕こふか。〔龜〕そふさ。ヲヤ堅くる
しい寐よふをして居なんすね。是を解
なんしな。〔文〕どふも帶をとくと寒ひよ。
〔龜〕何さ。わつちが寒くねへようにして
上むす。〔文〕そんなら解ふ。〔龜〕そでわ
ちもさ。なんと寒かアおせ
んすめへ。〔文〕ウ、寒かアねへが。おか
しな心持に成た。〔龜〕ドレ待なんし。マア
此をのいんし。〔文〕どふも前
のが。つめたくさ。つてきみ
が悪ひ。〔龜〕よくいろ／＼なをい／＼な
んすね。サア是でよししかへ。〔文〕よし
／＼。〔東〕安や／＼。〔聲にて。安／＼。〕
〔安〕おくざしきヲ、寒ひ／＼。モシお呼なん
したかへ。〔東〕ウ、てめへもモウゑへか
げんにねたがい／＼せへ。〔安〕なんだかい
つを酔て。ぐつと一ト寐入にやりつけ
やした。何は女郎衆はへ。〔東〕さればそ
の事だよ。なんだかしらねへが。一寸
と來たつけが。虫がかぶるとぬかした

から。こいつもある風なせりふだとは
思つたけれども。やばらしく調べるで
もねへとおもつて。眞に受た振で藥を
やつたら。湯のんで來るといつて。
往たつきり今にうしやアがらねへ。
來ねへふんは頓着もねへが。湯じやア
有めへ。前の川い這入て水でも喰て居
るもしれねへ。馴染だけに見て來てや
らつせへ。〔安〕そりやアまた。つまらね
へ詮議でござんすねへ。とろちかへ出
安どんお目覺かへ。〔安〕目まぜしお目覺所
じやアござんせん。何所へ往てお出な
んすな。〔西〕ナニいつそ虫がかぶつてな
らねへから。今までかん所にいたもの。
〔安〕マア／＼這入なんし。ぬしが腹ア立つ
お出なんす。〔西〕ヲヤついでねへの。〔東〕な
んだ。ついでねへ。此やうにあつかわれ
た事アついでねへハイ。〔西〕何をぬし
をあつかひぬしたナ。〔東〕へえあんまり
おしがおもてへ。モウ押付迎だらう。

馬鹿／＼しい。〔西〕そんなら何かへ。わ
つちが來よふが遅へとおつせんすのか
へ。〔安〕遅へくれへはござんせん。モウ
今にお迎でござんせう。〔西〕ナニサさつ
き來て寐たけれども。どふも虫がかぶ
るから。手水に往たのだハナ。夫を
そのやうに腹ア立なんす事アござんせ
ん。〔東〕なんだと。手水に往たと。手水
か行水かしらねへが。大概ほどの有た
もんだ。ゑんこうばうあけくの居風呂
でも。そふ久しく懸るもんじやアねへ
ハイ。〔西〕そんならわつちがわりひから。
堪忍なせんし。〔東〕その誤りよふが遅へ
よ。い／＼にくひ事たが。裏やぐらとや
ら。巨燵機とやら。こんながたひす
る所へ來た事アねへが。つゐにこんな
に安くされた事アねへせへ。〔西〕安くし
たとおつせんすりやア。わつちも申あ
せう。賤しい勤はしあすけれども。つ
いぞ初會から手前呼りをされた事アこ

せんせん。東そんなら手前と云たが奇怪か。なんだ。イケ子細らしい。呼出したの。引出したのとつて。書出しが聞てあきらめらア。安モシ。そんな事をおつせんしちやア。お人柄にもお似合なさりません。太平樂のやうで。悪うごせんさあ。東いゝわナ。うつちやつて置せへ。人柄だの。ぬけがらだのと。立だをしはごせんすめへ。安ナお前を立だをしに致すもんでおせんす。たとひ一日でも斯してお供をすれば。旦那でごせんすハナ。まあ、何にしろ。わたしに下さりまし。東サアおれも折角。主の注文で建て来たもんだから。縦令長竿にされたとつて。たかで岡場所の公界しらすだと。こつちが非に見て居るのだから。おとなげなくいふ氣もなかつたが。あいづがいきなりに。ついぞねへの。腹ア立た事アねへの。手めへ勝手な事をぬかすか

らの事よ。文。東もまた。東アイサわつちも聞ておりゐしたが。おうたさんの云ようもよくおせんせん。なる程さつきから。虫がかぶるとはいひしたつけよ。東何のお前達ア起て来すともいひに。むすこねていやな。文いゝにへ。よふごせんす。安さあ、もふ何もおつしやらすに。東里さんもちつとおよりやし。東ナニもふむけへだらう。そのハイおむけへでござります。東そりやこそ。サア歸らう。こんな所において。どんな目に逢ふもしれねへ。東おめへ合羽はへ。文今の所にあろふ。取て来てくん。〇鶴鑑ならねど。きぬ、告るお迎ひのト聲に。己がさま、別路もきまつた客は裏櫓の裏やくそく。必ずよとべる手に。菰にやく島のぐにやとなり。お近ひうちにと夕沙も。そりや仲町のあいそづかし。裾つぎならで。すそつばりの舟頭が。廊下

に呟くかね言も。土橋かさねはかぶらん事を恐れ。おさらばさらばの出来不出来。當はづれも時の興。榮花の夢の樂しみは。淺くはなひぞや深川。